

令和5年度

進路だより Jr.

令和6年3月22日発行 vol.3 松橋西支援学校 進路指導部

主に小中学部の保護者のみなさんが知りたい進路に関する情報の掲載やご要望、悩み等についてお答えする「進路だより Jr.」を発行いたします。

第3号は「卒業生と保護者の方からのメッセージ」をご紹介します。

修了式

保護者の皆様にとっては、高等部卒業後の生活は「まだ先のことで想像ができない。分からない。」
「卒業後が近づいているけど不安。」など様々な思いをもっておられるのではないかと思います。

今回は、卒業生と保護者の方に以下の質問に答えて頂きました。先輩方のメッセージを参考に、



新年度に向けて新たな目標をご家族で話し合われるきっかけになればと思います。

～卒業生への質問～

Q1. 平日1日の生活スケジュールを教えてください。

- ・月～金曜日、10時～12時半まで、13時半～15時まで肉の加工作業。その後清掃、樽洗いをしている。仕事は送迎利用。火曜日だけ帰宅後にピアノを習っている。20時くらいに就寝し、3時から4時に起床。
- ・6時起床。仕事は9時～15時まで。お昼は弁当を作ったり店で購入したりしている。仕事が終わった後は、テレビ（YouTube や PrimeVideo）を見て過ごす。
- ・朝6時半に起床後、点眼、ご飯などを済ませて8時半に出勤。作業着に着替え、9時半に朝礼、途中休憩を取り、15時15分まで作業。掃除や着替えをして16時に終了。
- ・7時35分起床。お弁当をつめて着替え、9時に送迎車で仕事に行く。9時半から掃除→仕事（途中休憩）。12時～13時昼食。13時～14時45分まで仕事をし、日誌を記入後15時に帰宅。帰宅後に弁当箱を洗い、その後は好きなことをして過ごす。



Q2. 休日はどのように過ごしていますか。

- ・土曜日は8時から40分ぐらいペン習字を習っている。その後買い物や最近、スポーツ観戦をしている。
- ・家族と買い物したり、友達と遊んだりしています。（泊りもしています）
- ・親とお出かけや仕事場の友達と外出です。
- ・YouTube を見たり、インスタを見たり、母と買い物に行ったりしています。



Q3. 卒業後生活で楽しみや大変なことがあれば教えてください

- ・好きな歌手のコンサートに多く行きたい。ピアノでもっといろいろな曲が弾けるようになりたい。
 - ・（楽しみ）時間に関係なく遊べること。（大変なこと）家族の手伝い。
- ・旅行。
- ・同窓会の会議が楽しみ。
- ・社会人は夏休みがないので慣れるまで時間がかかった。



Q4. 在学中の後輩たちへ学校生活のアドバイスを。

- ・コミュニケーションや時と場面による対応を覚えていくと仕事がスムーズに行き、効率の良い作業ができると思う。
- ・しっかり勉強や運動を頑張る。
- ・自分で考える力を身につけておくと役に立つ。



～保護者の方への質問～

Q1. 小学部・中学部の段階からでも、将来に向けて考えておいたほうがよいこと、経験しておいたほうがよいことなど教えてください。

- ・20歳前の病気やケガで障害が残った場合、我が子が最初に病院に掛かった記録は障害基礎年金を手続きする時非常に重要になる。
- ・バスや電車の乗り方。
- ・高等部になると、先生方の接し方が将来を見据えた支援になる。中学部の時から自分でできる手伝いを継続させたり、無理のない範囲でさせたりするとよいと思う。今も大変だと思うが、大人になってからも大変で、親も壁にぶつかるときがあるので相談できる仲間作りも大切。いずれは大人になっていくという気持ちを心の片隅において成長を見守ることも大切。



Q2. 休日の過ごし方余暇の見つけ方などおすすめやアドバイスをお願いします。

- ・月に2回SO（スペシャルオリンピック）に参加し、体を動かしている。

Q3. 高等部進学先や卒業後の進路をどのように決められましたか。

- ・高等部は自分で交通機関を利用して登校できる距離で、地元の友達と過ごせることを考えた。
- ・卒業後の進路は、近くにB型の作業所があったのと、本人の希望で決めた。

Q4. 親がいなくなった後の生活をどのように考えられていますか。また、何か具体的にされていることがあれば教えてください。

- ・グループホームで過ごせればと思う。
- ・本人の妹に相談している。本人はかなり抵抗があったが、親に依存していた部分もあり、思い切って施設に入所した。将来は成年後見制度も考えている。



「進路だより2月号」でご案内した3月3日に開催された「ぜんち共済オンラインセミナー」では、強度行動障害の子供をもたれている金森祐行さんの講演がありました。その中で「在学中に親として準備しておくこと」の1つとして、『特別支援学校時代は守られているが、原則として、卒業後は守られない現状であることを認識すべき。そのためには、親自身が勉強する必要がある』。また、進路を決める際、『進路先のことをよく知る』との話がありました。この2点に関しては、保護者の方だけでなく、学校を始め関係機関との連携・協力も必要になると思います。

今年度は、保護者の方からのアンケートを基に「進路だより Jr.」を発行しました。進路に関することで不明な点や不安に思われる点などありましたら、いつでも学校にご相談して頂ければと思います。



